

平成21年度第2回米子工業高等専門学校評議員会議事要旨

1. 日 時 平成22年3月2日(火) 14時00分~16時10分

2. 場 所 米子ワシントンホテルプラザ

3. 出席者 【委員】

田中久隆(議長)(鳥取大学工学部長)

南場千尋(米子工業高等専門学校後援会会长)

矢末 誠(米子工業高等専門学校同窓会会长)

船越寛明(鳥取県西部地区中学校長会会长)

金田 昭(財団法人鳥取県産業振興機構理事長)

(欠席者)

横濱純一(鳥取県教育委員会高等学校課長)

皆尾雅人(米子市企画部長)

森脇 孝(米子工業高等専門学校振興協力会会长)

岡田慎也(ダイキン工業株式会社滋賀製作所所長)

【米子工業高等専門学校】

水島和夫校長 小田耕平副校長 香川律教務主事 竹内彰継学生主事

大塚茂寮務主事 竹中敦司専攻科長 足立新治地域共同テクノセンター長

神原敬三事務部長

(説明者)

南雅樹一般科目長 蔵岡誉司教授 酒井康宏教授 池本幸雄准教授

中川右也助教

4. テーマ 「米子工業高等専門学校における教養教育について」

○ 校長挨拶

開会にあたり校長から、本校カリキュラムの充実及び改善に向けた取組みを積極的に展開、推進していくため、本日は一般科目、特に数学科、外国語科及び保健体育科について現況、課題等を踏まえて忌憚のない御指導、御意見を賜りたい旨挨拶があった。

5. 議事

1) 一般科目について

一般科目長から、資料に基づき一般科目の位置付け、教育目標、現状の問題点等について説明があつ

た。

委員から、普通科高等学校との相違点について質疑があり、一般科目長から、理数系の科目については普通科高等学校に比して難度が高い点を除けば大きな相違はない旨の説明があった。

また、委員から、中学校卒業時点での学力低下及び学力の二極化に対する対策について質疑があり、教務主事から、高専における豊富な経験を有する専攻科生をティーチングアシスタントとして低学年学生への勉学指導、学習支援に当たらせている旨の説明があった。

2) 数学科「米子高専の数学科教育」

蔵岡教授から、資料に基づき教育課程、習熟度別授業の目的及び現状等並びに数学科教育に係る課題・問題点等について説明があった。

3) 外国語科「コミュニケーション能力向上と資格取得を目指した外国語授業」

酒井教授から、資料に基づき教育目標、教育方法、課題・問題点等について説明の後、中川助教から、電子黒板「スマートボード」を活用した授業の展開方法等について説明があった。

委員から、第二外国語については、現在の世界における東南アジアの位置付け、日本と東アジアの関係の観点からドイツ語よりもむしろ中国語、韓国語を履修する必要があるのではないかとの意見があった。

4) 保健体育科「生きる力を育む保健体育授業の実践」

池本准教授から、資料に基づき教育目標、教育課程、学習評価の視点・基準、高専生の現状と課題等について説明があった。

委員から、上級生の体力低下、コミュニケーション能力の不足、メンタルヘルス等高専生の課題に対する取組みが極めて重要である旨の意見があった。

5) 各委員からの意見

3教科の現状及び課題等を踏まえて次のとおり各委員から意見があった。

- ・3教科に共通の課題としてコミュニケーション能力の育成が重要である。
- ・電子黒板の今後の利活用方法、特に学生の興味・関心が薄れた際の使用方法の工夫が必要である。
- ・第二外国語については、工業系の技術者の養成の観点からは東南アジアの視点が重要であり、韓国語及び中国語をカリキュラムに取り入れるべく改革を行う必要がある。
- ・数学の能力を測定するため工学系数学統一試験(EMaT)を利用することも有効な方法である。
- ・高専の学校現場において学生教育の実際を見学する等により教育内容、教育方法等を理解・把

握したうえでカリキュラム等についての議論を行うことが極めて有効であり、次回の評議員会では
そのような場を設定願いたい。

- 6) 校長から、各委員からいただいた意見、指導及び助言等を今後の取組みに積極的に活かし、より良い学校とすべく不断の改善を行いたい旨の挨拶があり閉会となつた。